

**文学部・人文科学研究院**

I 研究の水準 ..... 研究 1-2

II 質の向上度 ..... 研究 1-4

## I 研究の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「研究活動の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）の研究発表の状況は、論文は平均68.8件、著書等は平均21.7件、学会での研究発表等は平均78.2件となっている。
- 平成22年度から平成26年度において、科学研究費助成事業の採択状況は平均50.6件（約8,020万円）となっている。また、第2期中期目標期間において、競争的資金の採択状況は平均3.3件（約380万円）、受託研究の受入状況は平均1件（約140万円）となっている。

以上の状況等及び文学部・人文科学研究院の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

### 分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「研究成果の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 学術面では、特に中国哲学・印度哲学・仏教学の細目において卓越した研究成果がある。また、アジア・日本研究を中心に国際的共同研究を推進するという方針に基づき研究を実施している。
- 卓越した研究業績として、中国哲学・印度哲学・仏教学の「ミーマーンサー学派の研究」があり、平成27年度に日本印度学仏教学会より鈴木学術財団特別賞を受賞している。
- 特徴的な研究業績として、思想史の「The Four Directional Beasts and Site Divination in Premodern Japan（前近代日本における四神と立地占い・敷地選定）」がある。
- 社会、経済、文化面では、特に日本史、思想史の細目において特徴的な研究成果がある。

- 特徴的な研究業績として、日本史の「戸籍・計帳・班田収授制度成立過程の研究」、思想史の「The Four Directional Beasts and Site Divination in Premodern Japan（前近代日本における四神と立地占い・敷地選定）」がある。

以上の状況等及び文学部・人文科学研究院の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

なお、文学部・人文科学研究院の専任教員数は49名、提出された研究業績数は13件となっている。

学術面では、提出された研究業績13件（延べ26件）について判定した結果、「SS」は2割、「S」は7割となっている。

社会、経済、文化面では、提出された研究業績10件（延べ20件）について判定した結果、「S」は4割となっている。

（※判定の延べ件数とは、1件の研究業績に対して2名の評価者が判定した結果の件数の総和）

## Ⅱ 質の向上度

### 1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「研究活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 22 年度から平成 26 年度において、科学研究費助成事業の採択状況は平均 50.6 件（約 8,020 万円）となっている。また、第 2 期中期目標期間において、競争的資金の採択状況は平均 3.3 件（約 380 万円）、受託研究の受入状況は平均 1 件（約 140 万円）となっている。
- 海外の大学からの研究者との共同研究や共著論文の執筆等を通じて、世界的なプレゼンスの向上を目的としたプログラムである「Progress100（世界トップレベル研究者招へいプログラム）」の実施に伴い、3 名の外国人教員を招へいし、アジア研究の国際化の推進を図っている。

分析項目Ⅱ「研究成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 卓越した研究業績として、中国哲学・印度哲学・仏教学の「ミーマーンサー学派の研究」があり、平成 27 年度に日本印度学仏教学会より鈴木学術財団特別賞を受賞している。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における研究水準の結果も勘案し、総合的に判定した。